

中学校英語 「指導と評価の一体化」

テスト改善ハンドブック



2.0



本ハンドブックでは、テスト改善に向けての方向性を具体的な事例とともに示しています。

全国学力・学習状況調査の調査問題や結果から、各校の教科会で検討してきた足跡が分かるように、各事例を記載しています。テスト改善と同時に授業における言語活動の充実を目指していくことで、英語の授業における「指導と評価の一体化」を進めていきましょう。

※本ハンドブックは、平成 31 年度に作成されたテスト改善ハンドブック 1.0 を一部修正し、内容を追加したものです。

Contents

1 外国語科の資質・能力を育成する授業に向けて

- (1)セルフチェックシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2)逆算的な単元構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3)生徒が英語を使って言語活動を行う授業へ・・・・・・・・ 4

2 評価が変わる 生徒が変わる・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

3 全国学力・学習状況調査の調査結果を活用した授業・テスト改善・・・・・・・・ 6

4 実践事例について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

- 1 「聞くこと ア」の「思考・判断・表現」を評価するテスト1(H31 作成)・・・・・・・・ 9
- 2 「聞くこと ア」の「思考・判断・表現」を評価するテスト2(R5作成)・・・・・・・・ 11
- 3 「読むこと イ」の「思考・判断・表現」を評価するテスト1(H31 作成)・・・・・・・・ 15
- 4 「読むこと イ」の「思考・判断・表現」を評価するテスト2(R5作成)・・・・・・・・ 17
- 5 「話すこと[やり取り] イ」の「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価するテスト(H31 作成)・20
- 6 「話すこと[発表] ウ」の「思考・判断・表現」を評価するテスト(R5作成)・・・・・・・・ 22
- 7 「書くこと イ」の3観点を評価するテスト(H31 作成)・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 8 「書くこと ウ」「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価するテスト(R5作成)・・・・ 27

Ⅰ 外国語科の資質・能力を育成する授業に向けて

(1)セルフチェックシート

学習指導要領で求められている資質・能力を育成するためには、授業をどのように改善していったらよいでしょうか。資質・能力を育成する授業に向けて、以下の1～10の項目で単元構想や授業、評価を振り返ってみましょう。

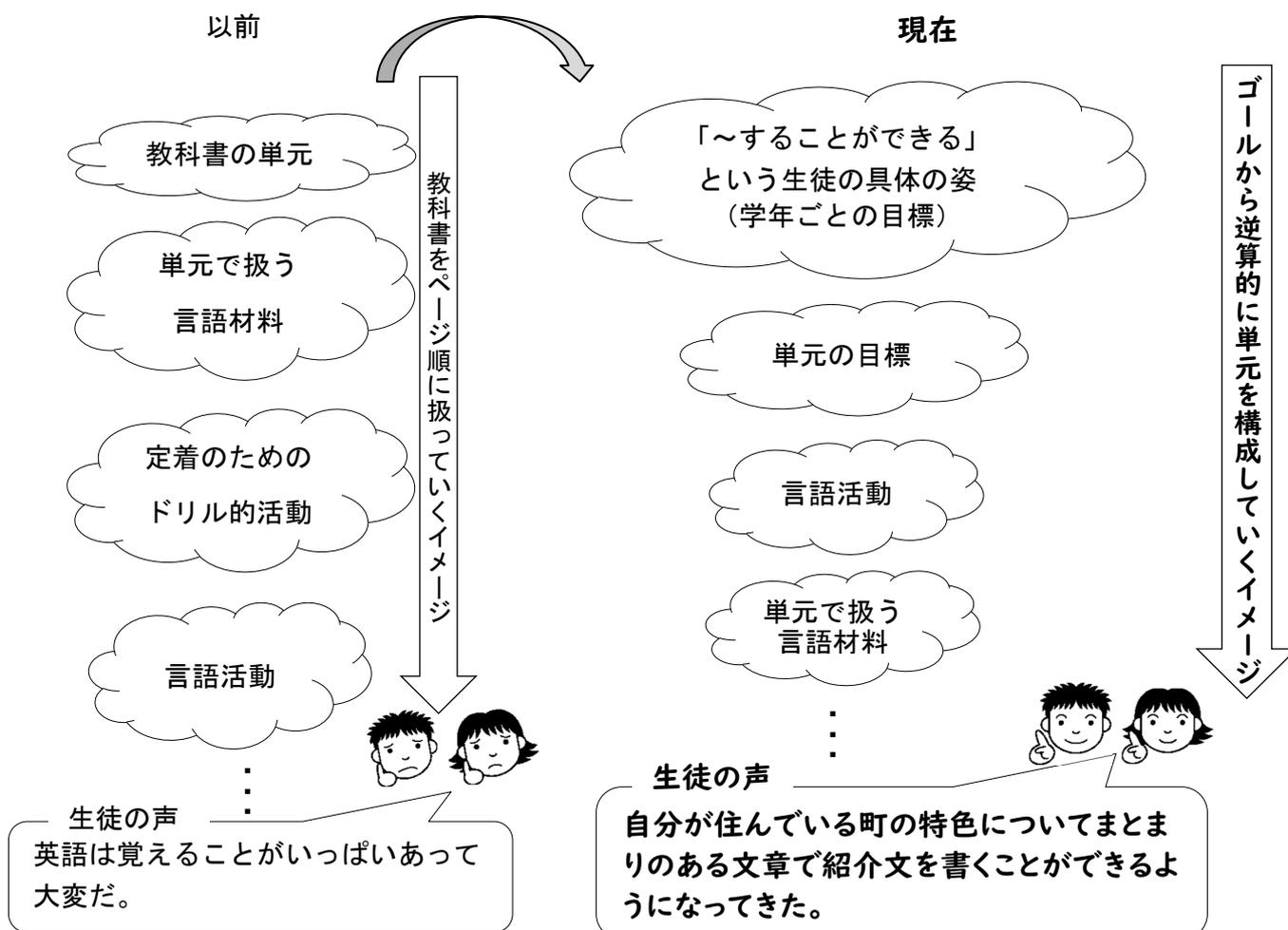
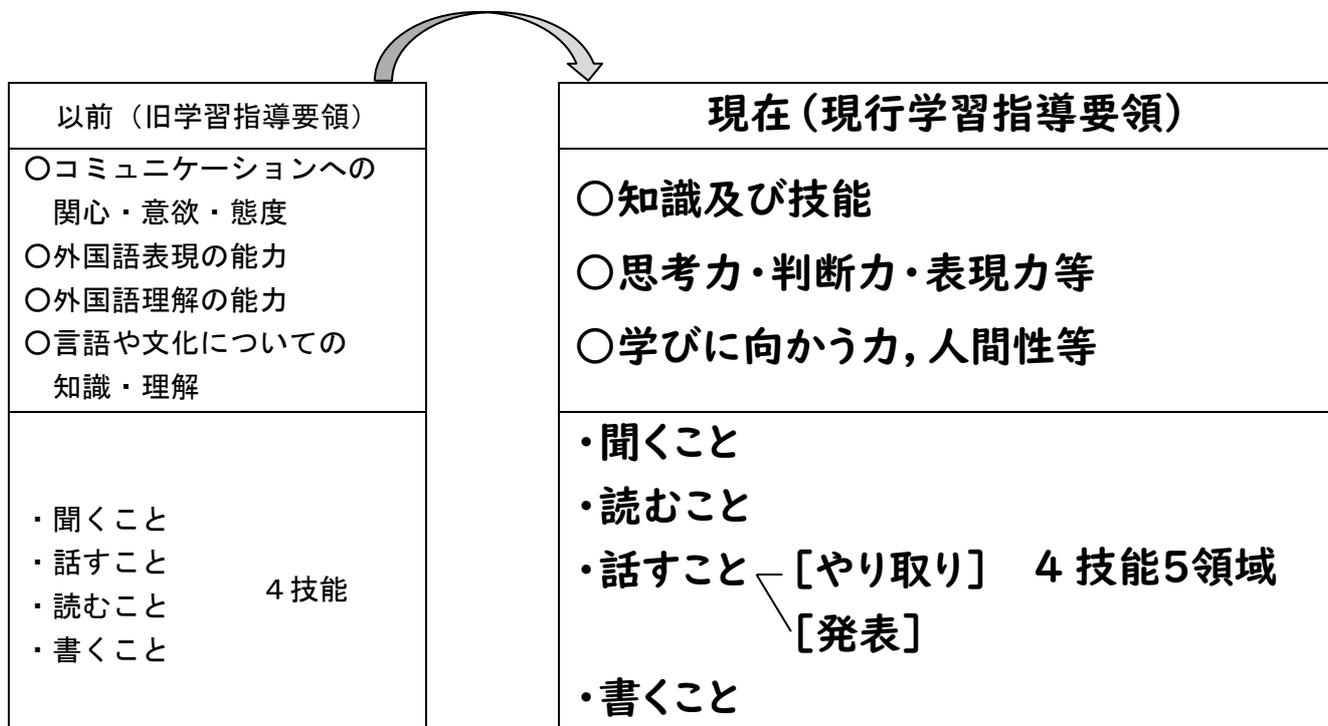
| 番号 | 目指す中学校英語授業と評価 | セルフ チェック ◎○ △× |
|----|---|-------------------------|
| 1 | 学校で CAN-DO リスト形式の「学年ごとの目標」を設定し、教科会の先生方と目指す生徒の姿を話し合っている。 | |
| 2 | 学校で CAN-DO リスト形式の「学年ごとの目標」を設定し、生徒と目指す姿を共有している。 | |
| 3 | CAN-DO リスト形式の「学年ごとの目標」や単元の目標から、逆算して言語活動や教材の扱い方を工夫している。 | |
| 4 | 授業では、自分（教師）が解説や説明をしているだけではなく、生徒が英語を使う言語活動が授業の中心となっている。 | |
| 5 | 授業では、自分（教師）は発話をおおむね英語で行っている。 | |
| 6 | 生徒が活動をしているときに個々の様子を観察し、英語が得意な生徒や苦手な生徒等に対して、個に応じた指導をしている。 | |
| 7 | 「話すこと [やり取り]」の力を高めるために、Small Talk などの即興的な言語活動を普段の授業で実践している。 | |
| 8 | テストを作成する時に、全国学力・学習状況調査の調査問題等を参考に、学習指導要領や「学年ごとの目標」を意識したテストを作ろうとしている。 | |
| 9 | テストを作成する時に、「知識・技能」を評価する問題と「思考・判断・表現」を評価する問題とのバランスを考えて作ろうとしている。 | |
| 10 | 生徒の話すことや書くことの資質・能力を図るために、パフォーマンステストを年3回以上実施している。 | |

1～10の項目でのセルフチェックを基に、どのような授業や評価をしたらよいか同僚と話し合ってみましょう。

生徒の資質・能力の育成を目指すために、次ページ以降をヒントにしましょう。

(2) 逆算的な単元構想

育成したい資質・能力や領域、単元構想について改めて確認してみましょう。



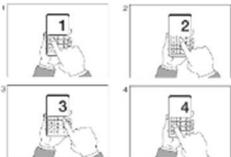
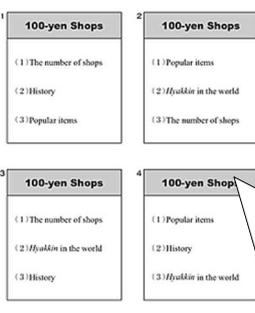
(3) 生徒が英語を使って言語活動を行う授業へ

生徒の資質・能力の育成に向けて、生徒が言語活動を行い、英語を使いながら身に付けていくような授業にしていきたいと思います。

| 学習活動や留意点等 | 以前(旧) | 現在(現行) |
|-------------|---|--|
| ウォーミングアップ | ・形骸化した問答(日付や曜日の確認、形式的な Q&A を行う クリスマスなど) | コミュニケーションのある授業 ・教室英語、Teacher Talk ・Small Talk、簡単なスピーチ |
| 語彙指導 | ・新出単語の意味については対訳で暗記 ・新出単語の日本語訳をワークシートに記入 | 生徒の気付きを促す語彙指導 ・語句と意味を知るだけではなく、聞いたり読んだりする中で意味を把握する活動 ・話したり書いたりする中で、その語句を使って表現する活動 ・受容語彙と発信語彙を意識した語彙を習得するための学習 |
| 言語活動 | ・リピート ・新出文型定着に向けた練習 ・ワークシートを見ながらのインタビューゲーム ・クラス全員で声をそろえて音読する等の一斉一律の練習活動 ・練習→練習→練習→言語活動という、知識の定着をしてから言語活動につなげるイメージ | 互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動 ・Small Talk、簡単なスピーチ ・日常的な話題について出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動 ・つまづいている生徒を支援しながら英語が得意な生徒を伸ばす個に応じた指導 ・言語活動→(必要に応じて理解・練習)→言語活動 ➡ 言語活動を通して、英語を使いながら身に付けていくイメージ |
| 文法指導 | ・1文だけのターゲットセンテンス提示 ・ドリル学習のみによる定着 ・文法用語を中心とした解説 | 言語材料と言語活動を効果的に関連付けた文法指導 ・意味のある文脈で文法事項を提示 ・言語活動の繰り返し |
| 話すこと [やり取り] | ・黒板を見ながらの Q&A ・定型の対話文の暗記 | 自分の考えや気持ちを整理して伝えたり、相手の考えを聞いて質問をしたりすることができるやり取りの指導 ・教科書題材に関するディスカッション |
| 話すこと [発表] | ・スピーチのための原稿作成 ・原稿を暗記したスピーチ | 即興で話すスピーチ ・メモを基にした即興スピーチ |
| 領域統合型の言語活動 | ・教科書を読んで感想を英語で1~2文で書く活動 | 実際のコミュニケーションに近い言語活動 ・ALTからの伝言を聞きメッセージを書く活動 ・e-mailを読んで返信を書く活動 |
| 教師と生徒の英語使用率 | ・英語で指示をした後、日本語で補足説明 | 「授業は英語で行うことを基本とする」 ・教師は授業の75%以上を英語で ・生徒の英語使用率の増加へ |

2 評価が変わる 生徒が変わる テスト改善×授業改善=資質・能力の育成

「～できるようにする」という目標をもって授業で学習したことを評価するテストを作成するようにしましょう。

| | 以前（旧） | 現在（現行） |
|-------|--|--|
| リスニング | <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードが聞き取れば答えられる問題 ・放送は2回繰り返し | <ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現」を評価する問題 あなたは買物からの帰宅後、ショッピングセンターに傘を忘れたことに気が付きました。電話で問合せをしたところ、自動音声案内につながりました。流れてくる音声メッセージを聞き、あなたが選択すべき番号として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。 ・本物の状況に近い1回の放送  <p style="text-align: right;">〔答え〕 3</p> |
| 語彙 | <ul style="list-style-type: none"> ・日英対訳型の問題 次の日本語を()内のアルファベットから始まる英語にしなさい。 図書館→(1) | <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」を評価するテスト 次の英文を読んで、()内に入る最も適切な語(句)を、下の1から4までの中から1つ選びなさい。 People go to () when they want to borrow books. You can read books or study there. 1 hospitals 2 libraries 3 book stores 4 restaurants 〔答え〕 2 |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・語形変化問題 次の英文の()の語を適切な形にしなさい。 I (see) Mike two years ago. ・文の書き換え問題 次の英文を()の指示に合うように書き換え、全文を書きなさい。 Mike ate breakfast this morning. (疑問文に) | <ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」を評価するテスト 例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、それぞれ会話が成り立つように英語を完成させなさい。 (例) <先生と生徒の会話> A: Do you have any plans for summer vacation? B: Yes. I (visit) my uncle in London. I can't wait. A: Wow, that's nice. 〔答え〕 am going to visit |
| 長文問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習の教科書本文がそのまま出題されている長文問題 ・長文問題の中に語順並べ替えや語形変化が混在し、本文が正しく読み取れているか確認するQ&Aのみの問題 ・英文の部分的な読み取りを問う問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報、概要、要点を読み取る力を評価するテスト <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <p>⑥ 英語の授業で、身近なものを調べて発表することになりました。次の英文は、ある生徒が100円ショップについて調べてまとめたものです。これを読んで、発表の始めに話の流れを示すスライドとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。</p> <p>We have many 100-yen shops (<i>hyakkin</i>) in our city. We can buy many kinds of things for 108 yen now. One of the biggest sellers is stationery. Many people buy kitchen items and cleaning items, too. We can also get food, toys, and even clothes.</p> <p>There were some shops like <i>hyakkin</i> long before the first <i>hyakkin</i> shop opened. In the 1930s, Japan had "10-sen shops." Everything in these shops was 10 sen. They were very popular. Their number went down during World War II. In the 1960s, some supermarkets or department stores had 100-yen corners or 100-yen events. In 1985, the first <i>hyakkin</i> opened in Aichi. In the 1990s, a lot of <i>hyakkin</i> opened in Japan. Today there are about 8,000 shops.</p> <p>There are shops like <i>hyakkin</i> in many countries. For example, in the U.S., they have one-dollar shops. I was surprised that some of these shops sell medicine. We cannot buy medicine at <i>hyakkin</i> in Japan. The U.K. has one-pound shops. In the U.K., DIY is popular, so there are many items for DIY at one-pound shops. Many other countries also have shops like <i>hyakkin</i>.</p> </div> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 0.5; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p style="text-align: center;">(例)</p> <p>概要をつかむことができているかを問うテスト</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">〔答え〕 4</p> |

※問題は、平成31年度、令和5年度全国学力・学習状況調査から引用しています。

3 全国学力・学習状況調査の調査結果を活用した授業・テスト改善

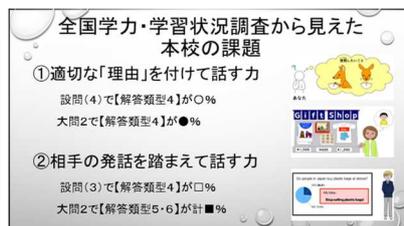
令和5年度テスト改善ハンドブック作成ワーキンググループの先生に聞きました。

「先生の学校では、どのように全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を活用していますか？」

A先生の学校では、



1. 教科会で調査結果を確認したところ、本校では自分の考えを適切な「理由」とともに話すことと、相手の発話を踏まえて話すことに課題があることが見えてきました。



2. まずはCAN-DOリストに立ち戻り、話すこと[発表]の資質・能力を育成するために、3学年で実施していた言語活動とスピーチテストについて振り返りました。すると・・・

| | 話すこと(発表) |
|----|---|
| 3年 | ・社会的な話題や日常的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて、留学生・ALT・仲間に話すことができる。 |

【CAN-DO リスト】(目標)

3年生の話すこと[発表]の学年ごとの目標では、
・聞いたり読んだりしたことについて
・理由も含めて述べることで、
が出来ることを目指していたが・・・

<1学期に行った言語活動例 話すこと[発表]>

- ・海外からの留学生に、オススメの「日本案内プラン」を紹介する。
- ・「Things to do in summer」といったお題に対して2案を作り、紹介する。
- ・ALTの先生に、自分が好きなことや取り組んできたことを紹介する。

【言語活動】(指導)

「読み聞きした内容を踏まえること」「理由を述べること」は、必ずしも求められていなかった。

<3年スピーチテスト> ※事前に準備をしてスピーチを練り上げましょう！

Unit1では、「Sports for everyone」というテーマで学習をしてきました。Unit1で学習した内容について、あなたが知っていることや、あなた自身の考えについて、教科書で学んだことやピクチャーカードも参考にしながら、自由に事実やあなたの考えを述べてください。

【パフォーマンステスト】(評価)

事実や考えを述べるだけで、聞いたり読んだりしたことを踏まえる必要が無く、理由も述べるようになっていなかった。

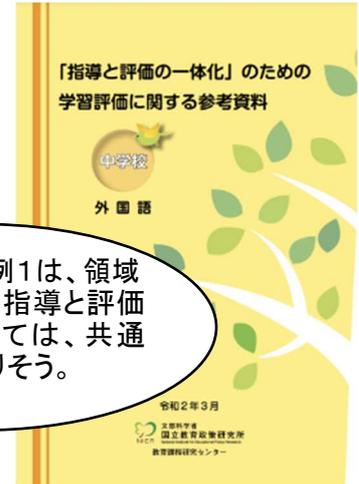


目標と指導と評価が一致していなかったことに気がきました。



3. 聞いたり読んだりしたことを踏まえ「適切な理由を付けて話すこと
の力」を伸ばしていくために、

- ・3学年のこの時期に生徒がどのようなことができるようになって
いけばよいのか
- ・どのような言語活動を単元や各授業の中心に据えればよいのか
を教科会で検討しました。参考にしたのは、以下の文献等です。



参考資料の事例1は、領域は違うけれど、指導と評価の計画については、共通する部分がありそう。

報告書の授業アイデア例 P95 に示されている学習過程を大事にしたいね。



指導の具体なら、文部科学省 mexchannel の、この動画が分かりやすいよ。

※テスト改善、授業改善の具体は、22 ページからの「話すこと[発表]ウ」の「思考・判断・表現」を評価する問題をご覧ください。



国立教育政策研究所

・教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」(国立教育政策研究所)

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校編・中学校編)(国立教育政策研究所)

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouusiryoku.html>

・文部科学省公式 YouTube「mexchannel」 「外国語教育はこう変わる！」シリーズ等

<https://www.youtube.com/playlist?app=desktop&list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f>

全国学力・学習状況調査の調査問題は、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づいて出題されています。

全国学力・学習状況調査の調査問題や調査結果を分析することにより、教師はどのような授業を行えばよいかという方向性を知り、教師の授業改善に生かすことや、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等につなげることができます。

今回示した過程だけでなく、①調査問題を参考に定期テストを作成→②資質・能力を育成するための授業を実施、といった生かし方等も考えられます。全国学力・学習状況調査を起点に、資質・能力の育成を図っていきましょう。

4 実践事例について

領域別「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の実践事例は、以下の構成になっています。

